

評価実施年度	令和 6 年度	学校名	大分県立 安心院 高等学校	
学校教育目標	「明朗誠実、自発創造、協調奉仕」の校訓のもと「人間尊重の精神」を培い、地域や社会の一員として高い志を持ち、地域課題の解決を図るために主体的に考え、他者と協働できる生徒を育成する。			
重点事項	評価項目	評価の観点	評価	今後の改善方法(学校作成)
カリキュラム・マネジメントの確立	学校教育目標	〇的確な学校経営ビジョンが策定されていて、学校教育目標の達成に資するために重点目標の焦点化が図られ、校長のリーダーシップの下、全教職員による教育活動が展開されているか。	・極めて良い。 ・小中高一貫教育や4コース6類型、コミュニティ・スクール等、学校経営ビジョンが明確に示されている。 ・学校教育目標の達成に向けた取組に「地球未来科」の推進を位置づけ、教育活動に落とし込んでいる。	・小中高一貫教育や4コース6類型、コミュニティ・スクールという他地域に見られない特長を生かした学校教育活動が持続可能な取組となるよう努力していく。 ・「地球未来科」をより充実させるため、校内研修会や学年主任会を開催し、全教職員による教育活動を展開する。
	PDCAサイクル	〇重点目標を達成するための焦点化された取組指標や達成指標等が適切に設定され、機能しているか。 〇取組指標や達成指標等の評価・検証を計画的に行い、以後の実践に直ちに反映させるなどPDCAサイクルが確立しているか。 〇予期しない課題が判明した時点で、その解決に向けて校内分掌が速やかに機能するように、組織的な責任・運営体制は整備されているか。	・極めて良い。 ・学校教育目標の下に3つの重点目標が明確に設定されている。 ・学校教育目標の達成に向けて、取組指標や達成指標が客観的に検証可能な形で適切に設定されている。 ・組織の人員体制や多様なカリキュラムによる恒常的なマンパワー不足への改善を図っており評価できる。	・引き続き学校教育目標達成に向けた重点的取組を設定し、客観的で検証可能な取組指標・達成目標を設定していく。 ・教員不足による未配置が発生しないよう、各所に働きかけ、マンパワー不足とならないようにしていく。
	社会との連携・接続	〇「開かれた教育課程」の理念に基づき、育成したい生徒像が家庭及び地域と共有されているか。 ・情報の伝達・公開を適切に行っているか。(ホームページ・SNSの活用、学校便りの発行等) ・生徒・保護者の学校への満足度や要望を把握する取組を行っているか。 ・地域内外の関係機関との連携や人材を活用しているか。	・極めて良い。 ・SNSを活用して学校の特色がわかる学習活動等について、積極的に発信している。 ・学校説明会において生徒に説明させることで、生徒や保護者に満足度の高い広報活動ができています。 ・地元企業との繋がりを築いて教育活動に生かすと共に、地域活性化にも貢献している点は高く評価できる。	・SNSでの情報発信については、本校生徒・保護者のみならず、中学生、県内外の高校、地域住民等々に広がっている。今後は生徒作成の動画を積極的に使用するなど実効的な取組を継続していく。 ・学校説明会において、生徒によるプレゼンテーションを実施した中学校からの入学者予定者がかなり増加した。引き続き、本校の魅力を生徒の声で伝えていきたい。 ・地域・行政・地元企業・大学等との連携した「地球未来科」での取組や、地域ボランティアや地域貢献活動を継続していく。
主体的・対話的で深い学びの実現	授業の活性化	〇授業の活性化が図られているか。 ・学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。 ・授業のねらいに応じて、言語活動の充実を図ることで、「対話的な学び」が実現できているか。 ・授業の中で、知識を相互に関連付けて深く理解したり、情報を精査して自己の考えを形成したりする「深い学び」が実現できているか。 ・ICTを活用して、授業の効率化や授業の振り返りにつながっているか。 〇総合的な探究の時間や課題研究の学びとその他の教科・科目の学びが有機的に結びついているか。 〇生徒の学習習慣が定着し、学力及び学習意欲の高まりがみられるか。	・良い。 ・「地球未来科」が小中高の教育課程を貫く一本の柱として役割を果たしている。 ・「地球未来科」では、学校が綿密な計画を立てることで、生徒の主体的・能動的な学びを生み出している。 ・ICTの積極的な活用により、授業の効率化や視覚的な活用等、メリハリのある授業の様子が伺えた。 ・授業への満足度は高いが、予習や振り返りへの生徒の自己評価は6割にとどまるため、工夫が求められる。 ・授業に集中できていない生徒に対して適切な対応が取られておらず、改善が求められる。	・主体的な学びや自らが設定した課題の振り返りを深めることができるよう、スチューデント・ティーチャー活動を全教科に拡大していく。 ・講義を中心とした授業から生徒の主体性を引き出す授業づくりについて研修を行っていき、生徒にとって魅力的な学びになるように改善を図る。また、支援が必要な場合についても教職員間で連携を図り、学習を進めやすいように個に応じた学びを行う。
安全・安心な教育環境	いじめ・不登校等の対策	〇計画的な面談・相談を通して、個々の生徒の状況を理解した上で、生徒指導が学校の組織を挙げて行われているか。  〇いじめ・不登校防止対策に取り組む体制が整備され、いじめ・不登校問題に対して適切な対応がなされているか。	・極めて良い。 ・学校のきめ細かで丁寧な対応に、生徒の満足度は非常に高い。 ・生徒は安心安全な学校生活を送れると強く感じている。 ・生徒会活動や部活動等においても、学校は生徒を自立した大人として尊重しており、生徒もそう感じている。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携しつつ、個に応じた適切な対応ができています。	・定員は1学年2学級だが、自助努力で3学級編成とし、引き続き、きめ細やかな対応を行う。 ・個に応じた丁寧な対応ができるよう、チーム学校として、担任、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携を続けていく。
	安全管理	〇学校施設等の安全点検や通学の安全指導及び教職員・生徒の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか。  〇学校事故や非常災害など、緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理体制が機能しているか。また、生徒の安全を確保するための具体的取組が行われているか。	・良い。 ・学校施設の安全上の不備に迅速に対応し、改善できている点は評価できる。 ・一部見通しの立っていない部分もあり、引き続き改善に向けた対応が望まれる。	・校内安全点検を学期ごとに行い、学校事故の未然防止に努めるとともに、生徒・教職員からの改善の要望についても、重要度を勘案して今後もできる限り即時に対応していく。
信頼される学校づくり	働き方改革	〇生徒と向き合う時間を確保し、生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるよう、働き方改革が推進されているか。 ・会議・分掌業務、学校行事の精選、見直しが行われているか。 ・組織的な指導・運営体制の構築と学校の活動方針の徹底等による部活動改革に取り組んでいるか。 ・情報共有の効率化や校務情報化の推進など、ICTの効果的な活用によって業務改善が図られているか。	・組織改善委員会を通して分掌機構の見直しを行っており、学校全体で実行していることが伺えた。	・学年や分掌での意見を組織改善委員会で集約し、見直しを続けていく。
	学校課題の解決に向けた取組等	〇定員確保と教員配置に向けた取組の工夫がなされているか。  〇スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの達成に向けた教育活動が計画されているか。	・全国から生徒を集めるために、行政の支援を受けながら積極的に取り組んでいる。 ・教員未配置の部分に配置が完了したことは、学校の努力として評価できる。	・今年度入試で全国募集枠として4名入学予定となった。民間での住環境受入れには限界があり、寮の整備が必須である。また地域や行政とのつながりのためのコーディネーターの設置についても行政に働きかけていきたい。
総合評価	<p>・本校の教育課程は、やはり「地球未来科」が大きな役割を果たしている。様々な課題を通して、生徒たちが社会や他者、仲間と繋がりがつつ生きた学びを得ている姿が伺えた。</p> <p>・「地球未来科」の取組は、自己肯定感の低さや社会貢献意識の低さといった、日本の若者の課題とされる問題に対して有効な手立てとなるものであり、今後も取組が期待される。</p> <p>・少人数ならではのきめ細かな対応や4コース6類型という多様な学びの提供等、他にはない特色をもつ学校であり、地方の高校における一つのモデルとも言える存在である。</p> <p>・生徒の存在や意見を尊重する姿勢は、主権者教育の一環として今後も保ち続けることを期待する。</p> <p>・今後、現在の取組を継続していくには、学校のみならず地域との更なる連携や行政の支援が不可欠である。</p>			
校長コメント(次年度の改善策)	<p>・外部専門家から各項目における貴重な指導助言を受け、次年度から以下の取組を進めていく。</p> <p>・総合的な探究の時間「地球未来科」を本校の教育課程の中心に据え、より探究的な学びを深めるために大学や地域企業等との連携を強化し、生徒の主体的で協働的な生きた学びの充実に努める。</p> <p>・生徒の学校満足度を高め、安全安心な学校生活が送れるように、引き続き、少人数でのきめ細やかな丁寧な指導や普通科4コース6類型の充実を図り、各コースが単独ではなくコラボレーションした取組も行う。</p> <p>・学校重点目標に沿った教育が適切に行なわれているかを客観的に評価するため、今後も改善に向けた教職員及び生徒アンケートの分析をし、教職員の共通理解を図りながら、より効果的な教育実践となるようにショートスパンでPDCAを進める。</p> <p>・学校運営協議会設置校として、地域の教育資源の積極的な活用や小中高一貫教育の充実を図り、地域コミュニティと連携した魅力ある学校づくりを推進し、学校の魅力・特色を地域や保護者、生徒へSNSを活用して発信していく。</p>			